



Title	大ゴロツキとよばれて：『武訓画伝』と『封建奴才—武訓』
Author(s)	中野， 徹
Citation	連環画研究, 1, 83-94
Issue Date	2012-03-10
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.98381
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98381
Type	departmental bulletin paper
File Information	renkanga_1_83-94.pdf



大ゴロツキとよばれて ——『武訓画伝』と『封建奴才—武訓』

中野 徹

教訓とすることのできない武訓

賈霽「不足為訓的武訓」（『文芸報』第4巻第1期、1951年4月25日）

はじめに

1950年、中国で、孫瑜（1900-1990）監督・脚本の映画『武訓伝』が上映された。武訓（1838-1896）とは、清末、山東省で自ら乞食をしながら資金を集め、“義学”（貧しい者が無料で学べる学校）を興したことで知られる人物である。幼くして孤児となった武訓は、裸一貫で資金を集め、柳林鎮崇賢義塾（1888）、館陶楊二莊義塾（1890）、臨清御史巷義塾（1896）の三か所を作ったことから、民国期、教育者として賞賛されていた。武訓は『清史稿』に伝が立てられている¹。

武訓を演じるのは、1930年代、上海映画の黄金期を築いた大スター趙丹（1915-1980）であり、往年の大スターの迫真の演技は、観客の心をうち、映画『武訓伝』は『大衆電影』においてベストテンの一作という高い評価を得た。しかし、この評判の人気映画は、1951年、上映禁止処分を受けることになる。

映画『武訓伝』に対する批判は、少しずつ見られるようになるが²、その流れを決定づけたのは、中国共産党の機関紙『人民日報』の1951年5月20日付の社説「应当重視電影『武訓伝』的討論」であった。この文章は、“文化大革命”のさなか、毛沢東（1893-1976）の署名付きで再掲載³されたことで、毛沢東自ら加筆・修正していたことが明らかになった。この社説のあと、武訓歴史調査団による20日間の調査報告『武訓歴史調査記』が、武訓を「大地主、高利貸し、大ゴロツキ」と断罪したことで、武訓伝批判が中国全土に本格的に巻き起こり、批判の矛先は、武訓精神を広げた民国期の教育家陶行知（1891-1946）への批判に発展する。これは、“文化大革命”まで陸続と続く、知識人批判の嚆矢ともいえる。

本稿では、『武訓伝』批判前後に出版された武訓に関する二種類の連環画を比較し、連環画が果たした役割について考察する。

映画『武訓伝』と『武訓画伝』

孫瑜によれば、映画『武訓伝』は、1944年、陶行知が、重慶で療養中の孫瑜に『武訓先生画伝』（孫之儁絵画）を贈ったことがきっかけであるという⁴。この『武訓先生画伝』は、1937年に国民党の将軍段承沢（1897-1940）が出資して出版されたもので、1944年に再販されている（後述の『武訓画伝』とは別版本）。乞食をして義学を興した武訓の物語に感銘を受けた孫瑜は、その年の秋に『武訓伝』の脚本を書き上げたが、映画『武訓伝』の完成までに七年の歳月を要することになる。

南京の中国電影製片廠により『武訓伝』製作が決まると、1948年夏、北京で『武訓伝』の撮影が始まるが、国共内戦が激化したため、11月に撮影中止が宣告される。その後、1949年に崑崙影業会社が『武訓伝』の撮影権とすでに撮影済のフィルム（全体の約三分の一）を買い上げた。撮影はすぐに再開されるかに見えたが、役者が全国各地や台湾に散り散りになってしまったことや、新政権が樹立したばかりの中華人民共和国にあってふさわしい内容であるか議論されることになった。『武訓伝』は、脚本の修正を経て、1950年2月に山東で撮影が再開された。電力供給不足、機材不足のなか、撮影と編集作業が行なわれ、12月に編集所が火災に見舞われ、フィルムの一部が焼失するという不運に見舞われながらも、『武訓伝』はついに完成した。映画『武訓伝』は上映当初、高い評価を得たが、前述のとおり、『武訓伝』批判が始まると、上映禁止にされた。1985年に胡喬木により、この批判キャンペーンが非常に一方的で、極端で、粗暴であったことが認められるが⁵、映画『武訓伝』は現在も映像ソフト化されていない。映画研究者たちによる詳細な映像分析がまたれる⁶。

『武訓画伝』は、映画『武訓伝』上映にやや遅れた1951年上海万葉書店から出版された。

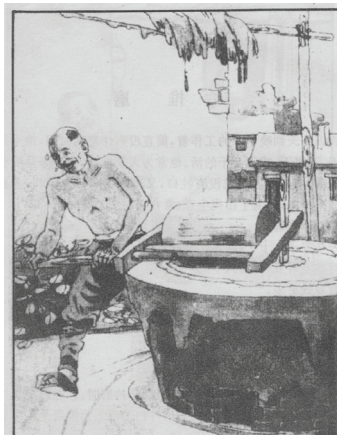
1945年、陶行知から『武訓先生画伝』改編を依頼された李士釗（1915-1991）は、1949年に、『武訓先生画伝』で絵画を担当した孫之儁（1907-1966）とともに、新たな『武訓画伝』を作り始める。李士釗は、周拔夫「武訓先生年譜」を基礎として、馮玉祥「武訓先生的生平」、段承沢「武訓先生画伝」、張黙生「武訓伝」、李端階「武訓先生簡譜」や、武訓本人と面識のある人物の口述をもとに『武訓画伝』の武訓の生前の活動を書いた。武訓の死後については、



労働人民の息子（『武訓画伝』）

陶行知「解放武訓先生」などの資料に基づいているという⁷。

『武訓画伝』では、人のためにありとあらゆることを行う武訓の行動が、職業紹介の図録『三百六十行』を見るかのように丹念に描かれている。義学建設のためという大義名分があり金銭の授受があるとはいえ、人のために仕事をこなす武訓は、中華人民共和国の英雄雷鋒（1940-1962）の活躍を見るかのようである。



上左 糞ひろいする武訓
上中 くわで草刈りをする武訓
上右 石臼をひく武訓
中 麦刈りする武訓
下左 天秤棒をかつぐ武訓
すべて『武訓画伝』（上海万葉書店、1951）

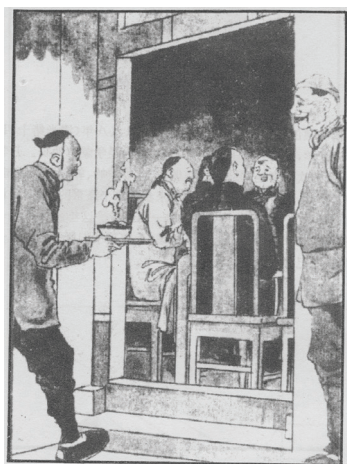


下右 天秤棒で荷物を運ぶ雷鋒
（陳広生、崔家駿〔傅琳、陳亦遜、肖映川挿図〕
『雷鋒的故事』解放軍文芸社、1973）





逆立ち（左）、ウマ乗り（中）、蛇食い（右）などで資金を稼ぐ武訓（『武訓画伝』）



- 中左 義学の出資者に食事を振る舞う武訓。ともに食事をとることを勧められるが、部屋に入らない。
- 中右 朝、起きて授業に来ない教師の部屋をたずね、跪いたまま起きるのを待つ武訓
- 下 授業をさぼる学生に跪いて勉学に励むように訴える武訓

（『武訓画伝』）

『武訓伝』批判が始まると、映画の孫瑜監督が批判されただけでなく、『武訓画伝』に携わった李士釗と孫之儁も批判され、知識人たちは『武訓伝』批判に関する文章を次々に発表してゆく。『武訓伝』批判に関する紹介や論考は数多くあるので、本稿では言及しない⁸。映画『武訓伝』の上映禁止に続き、『武訓画伝』も発売禁止となる⁹。批判運動から二年後の1953年に出版されたのが『封建奴才—武訓』である。

『封建奴才—武訓』

『封建奴才—武訓』（華東人民美術出版社、1953）を見ると、まず圧倒されるのは、製作に携わった人数の多さである。内表紙に書かれた執筆者は以下のとおりである。

文字編輯：米谷

主要人物造型：楽平

参加創作者

丁可、丁浩、白水、王琦、德威、順康、江帆、沈凡、同衡、柔堅、沈瑜、沈鳳、何基、白墅、右凡、承德、月泉、永青、克萍、雪巖、洪荒、涂克、琦平、亜光、柏華、逸之、凌濤、秋草、煙橋、加堅、謀基、文元、碧桐、寄萍、十髮、葉苗、俊生、德煒、宏本、振華、漢英、家裕、熾昌、野萍、永安、尚義、丁深、寸松、吳耕、雲階、甫堡、可揚、延年、文渭、大昕、羅盤、炳鑫

整理統一工作：米谷、楽平、冰鴻

『封建奴才—武訓』全72幅の連環画に携わった関係者の総数は60名にのぼる。この武訓批判の連環画には、当時の連環画関係者の総力が結集されており、署名付きでの集体創作が行なわれている。しかも、寄せ集めではなく、当時の上海における、漫画や連環画関係者が綺羅星のように並んでいるのだ。

“文字編輯”——脚本を担当している米谷（1918-1986）は、日中戦争時期、延安魯迅芸術学院で学び、1942年に、新四軍一師文工団美術組長となるなど活躍し、1950年には、張楽平、沈同衡らとともに『漫画』を創刊している。かれは、「アメリカ帝国主義」の侵略行為を批判した絵を多く手がけたことで知られる。

“主要人物造型”——主要人物のキャラクターデザインを担当している楽平とは、張楽平（1910-1992）のこと。周知のとおり、張楽平は『三毛流浪記』（1947）で有名であるが、1950年、上海美術工作者協会副主席となってから、中国美術家協会上海

分会副主席、理事など要職を歴任している。

この二人とともに、原稿を整理・統一したもう一人の人物の冰鴻とは、黎冰鴻(1913-1986)である。ベトナムに生まれ、ベトナム、香港で絵画を学び、日中戦争時期は、抗日宣伝画を多く手がけた。国共内戦時は、『華東画報』記者として従軍し、1949年以降は、浙江美術学院教授、油画系主任、中国美術家協会理事などを歴任している。

これら中心となった三人以外にも、その他に創作に携わった人物として、同衡(沈同衡。1914-2002)、十髪(程十髪。1921-2007)、宏本(趙宏本。1915-2000)、炳鑫(顧炳鑫。1923-2001)など、漫画や連環画画家として力を発揮していた人物が名を連ねている。この創作者リストからは、上海連環画界の総力を結集して、この連環画が作られたことが窺える。

『封建奴才—武訓』『前言』では、激烈な調子で、以下のように宣言する。

武訓、この農民階級の裏切り者であり、封建階級の奴隷は、過去長年にわたり、封建階級と買弁階級の統治者に賞賛され、「聖人」と呼ばれてきた。かれらは人民を愚弄し、人民を虐げるための道具として武訓を利用し続けてきたのだ。解放初期(中華人民共和国成立初期。中野注、以下同じ)にあつて、資産階級の思想は、またしても武訓のイメージを通して、人民を害しつつけ、ひいては「人民に奉仕する」という旗印を盗み、武訓の醜惡な行動を弁護しようとし、真実の歴史をねじ曲げてきた。映画『武訓伝』および『武訓画伝』は、大衆に極めて悪い影響をまきちらした。

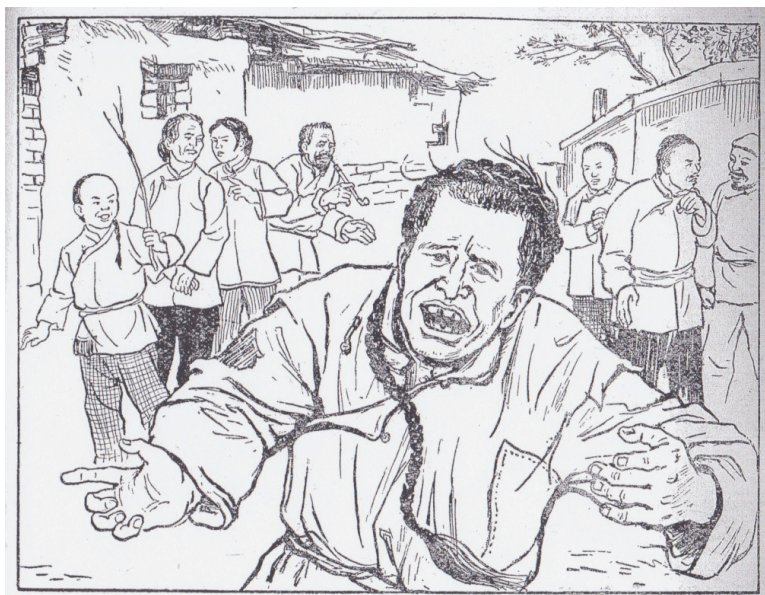
「武訓歴史調査記」が発表された後、この封建制度の奴隷の低劣な姿が遺漏なく暴露されたが、芸術的形象に具体的な描写を与えた作品はまだ多くない。そのため、この絵入り本を出版することにはまだ積極的な意味があるのだ。¹⁰

『封建奴才—武訓』『前言』

先に見たように、『武訓画伝』では、武訓は種々の労働により資金を集めていたが、『封建奴才—武訓』では、義学を興すための乞食行為は、農作業をしないための方便として描かれ、かれは他人から同情を得るために精神異常者を装っているとまで描かれている。また、資産家に取り入り、高利貸しとして貧しい人々から過酷な取り立てをするなど、醜い武訓像が読者に繰り返し提示される。以下、『封建奴才—武訓』に描かれる武訓像を見てゆこう。



2. ちょうどその頃（清の咸豊年間。中野注、以下同じ。）、山東堂邑県柳林鎮の西北五里（約3キロ）にある武莊というところで、農民階級を裏切り、満州族の清政府と地主階級に投降し、反動的統治の忠実な奴隷である武訓が生まれた。



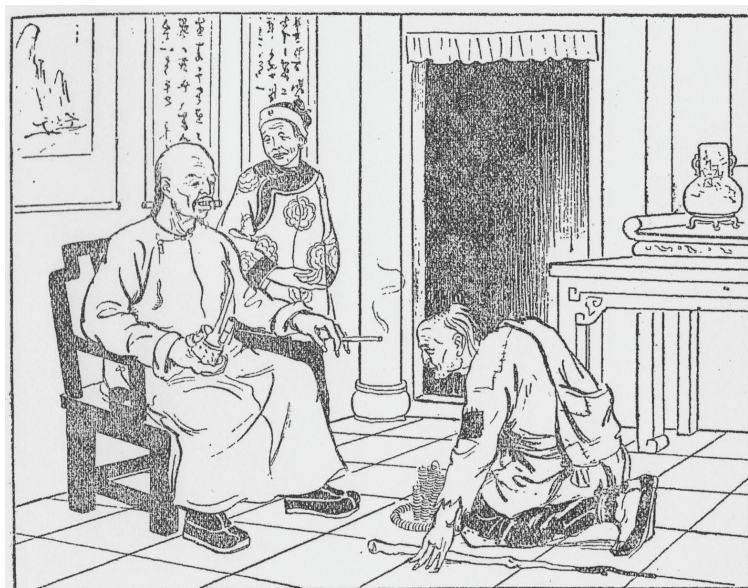
12. この「武豆沫」（武訓）は働かずして食べるという目的を達成するために、精神異常者を装うというとてもない方法を思いついたのだった。そこで、かれはブツブツ言いながら、いたるところで狂人のふりをし、「精神異常者」であることによって他人の同情と布施を得ようと企んだ。



16. この農民階級の裏切り者は、幼いときから資産家にたいへん憧れていた。そのため、ずっと高い地位にのし上がることを考えていた。こうして、かれは考えた。チャンスを逃してはならない。「義学を興す」という看板を掲げて乞食をすれば、きっと大資産家たちの援助を受けられるだろう。



18. それから、武訓は奴隷根性まる出しのありとあらゆる方法で、資産家の布施を得ようとした。かれは地べたに這いつくばりウマになり、資産家の子どもに乗らせた。そしてこう口ずさんだ。「ウマになりましょ、乗らせましょ、お金をもらえば、精を出しましょ」「静かに乗れば、速く這いましょ。あっしよろこび、あなた思いのまま」



32. 武訓は楊樹芳に跪いてかれの代理で高利貸しをさせてもらっただけでなく、館陶のべつの大資産家であり武進士の妻峻嶺にも跪いて高利貸しを代理でさせてもらうように頼んだ。



38. ある本売りが武訓の金を借りて、利息が払えなくなった。すると武訓にかれの書箱を最後の一箱までも持って行かれた。それからというもの、このかわいそうな貧しい本売りは生計を立てることができなくなった。



42. 西二荘の王茂礼は、もともと 12 ムー（1 ムーは 6.667 アール。0.75 ヘクタール）の土地を持っていたが、武訓からさらに 10 ムーの土地を借りて植えた。土地がやせていたため、小作料が払えず、自分が保有していた 12 ムーの土地まで武訓に没収された。王茂礼は一家 5 人で乞食をするほかなかった。



66. 臨清にひとりの若い寡婦がいた。かのじよは、この老いぼれのごろつきに義理の息子にするように強要されてから、ひとりの子どもを産んだ。両隣の家はこの子どもに後ろ指を指して「小豆沫」と呼んだ。子どもに罪はないのだが、ここから大衆の武訓に対する痛烈な恨みがわかる。

おわりに～都是江青的錯（みんな江青のせいさ）

『封建奴才—武訓』は、「武訓歴史調査記」をもとにしている。袁晞『武訓伝批判紀事』（長江文芸出版社、2000）によれば、調査に加わった「李進（中央文化部）」とは江青（1914-1991）のことであるという。毛沢東夫人江青は調査の時、武訓の悪い話を集めるなど、『武訓伝』批判に大きく関与しているという。

ことのきっかけは1934年の上海にさかのぼる。映画女優藍蘋として活動をしていた江青は、1934年4月26日に、俳優・映画監督として活躍していた唐納（1914-1988）と華燭の典を挙げる。杭州六和塔で行なわれたこの結婚式は、のちに『武訓伝』で武訓を演じることになる趙丹と映画俳優の顧而已（1915-1970）と三組の合同結婚式であった。しかし、江青と唐納との結婚生活はわずか二か月で破綻し、江青は唐納のもとを去り、かつての恋人である俞啓威（1912-1958）のもとに奔る。これにより精神的打撃を受けた唐納は自殺をはかるが、幸いにして、唐納は一命をとりとめる。唐納のことを案じた陶行知は、「唐納先生に送る」という詩を詠み、唐納の身を案じた。

听说您寻死，	君自害せんとすると聞く
我为您担心！	君がために心を痛める！
您要知道：	君は知らねばならぬ
蓝苹是蓝苹，	藍蘋は藍蘋
不是属于您。	君のものではない
您既陶醉在电影，	君は映画にこころを奪われているうえに
又如何把她占领？	どうして彼女を独り占めしようとするか？
.....	
如果您爱她，她不再爱您，	君が彼女を愛しても、彼女は君を愛さない
那是已经飞去的夜莺。	あれはすでに飛び去ったナイチンゲール
夜莺不比燕子，	ナイチンゲールはツバメとはちがい
她不会再找您的门庭。	彼女はもう君の庭を訪れないだろう
与其拖泥带水，	泥水にまみれるよりも
不如死了您的心。	あきらめるのが一番だ
..... 11	

この詩は、『生活日報』に掲載された時、江青に知られることはなかったが、『行知詩歌集』（1947）に収められた時、はじめて江青の目に止まり、江青は自らを「ナイチンゲール」に喩えた陶行知に激怒したという。

袁晞は、江青が一連の批判運動で一定の役割を果たしていると指摘するにとどめて

いるが、近年、陶行知の一篇の詩によって、『武訓伝』批判ひいては陶行知批判を江青が引き起こしたとする向きも見られる¹²。江青は、不遇の時期や、自らが窮地に陥ったときに、陶行知の庇護を何度も受けている。恩知らずの江青というお話としては面白いのだが。

本稿では、『武訓伝』批判研究においてあまり用いられなかった、武訓に関する二種類の連環画を用い考察してきた。連環画「封建奴才—武訓」は、政治的プロパガンダの道具としての連環画の機能をいかんなく果たしているといえる。文字資料だけでなく、図版資料を用いることで、政治運動が民衆にどのように伝えられ、またそこで批判の対象がどのように描写／改変されたかを知ることができる。連環画は、政治的な文脈を反映したものが多いが、新資料としての可能性をも有しているのである。

注

¹ 『清史稿』巻499 列伝巻286 孝義3（中華書局、1976）

² 董渭川「由教育觀點評『武訓伝』」（『光明日報』1951年2月28日、いま張明主編『武訓研究資料大全』山東大学出版社、1991所収）を皮切りに、賈霽「不足為訓的武訓」（『文芸報』4巻2期、1951年4月25日。のちに『人民日報』[1951年5月16日]に転載。『武訓研究資料大全』所収）などがある。

³ 『人民日報』1967年5月26日。

⁴ 孫瑜「編導『武訓伝』記」（『光明日報』1951年2月26日第4版。いま、張明主編『武訓研究資料大全』山東大学出版社、1991）

⁵ 胡喬木「対電影『武訓伝』的批判是非常片面、極端和粗暴的」（『人民日報』1985年9月6日、いま前掲『武訓研究資料』）

⁶ 映画『武訓伝』のおおよその内容は、孫瑜脚本「武訓伝」（『中国新文芸大系（1949-1966）』電影集、中国文聯出版公司、1988所収）、孫瑜『武訓伝』（上海新亜書店、1951）などから窺い知ることができる。また、日本語文献に、日本フィルムセンター所蔵の映画『武訓伝』公開をもとに書かれた阿部範之「資料紹介映画『武訓伝』—フィルムの特徴、独自性を中心に」（『野草』第89号、中国文芸研究会、2012.2）を参照されたい。また、中国語文献に、孟犁野『新中国電影芸術史稿（1949-1959）』（中国電影出版社、2002）がある。

⁷ 李士釗「著者序」（『武訓画伝』上海万葉書店、1951）

⁸ 『武訓伝』批判に関しては、前掲『武訓研究資料』に多くの批判文が収録されている。また、武訓伝批判に関して日本語文献に、吉田富夫、萩野脩二編『原典中国現代史』第5巻〔思想・文学〕（岩波書店、1994）、小山三郎『文学現象から見た現代中国』（晃洋書房、2000）、丸山昇『文化大革命に到る道』（岩波書店、2001）、砂山幸雄編『新編中国近代思想史』第7巻（岩波書店、2011）などがある。

⁹ 「『武訓画伝』再版序言」（李士釗主編、孫之儁絵画『武訓画伝』読書・讀書・新知三聯書店、1996）

¹⁰ 『封建奴才—武訓』（華東人民美術出版社、1953）

¹¹ 『陶行知全集』第7巻（四川教育出版社、1991）

¹² テレビ番組「騰飛中国：建国60年紀事」「1951紀事——江青与『武訓伝』」（鳳凰衛視、2009）。鳳凰衛視ホームページの記事「1951紀事之江青与『武訓伝』」（最終アクセス日：2012年2月20日。http://phtv.ifeng.com/program/tfzg/200902/0205_2950_996630.shtml。）